「ダニが刺したら穴2つは本当か？」

島野智之（著）

A5版，128ページ，定価1,800円（税別）
（ISBN978-4-89219-459-7　風濤社，2021年6月20日）

「ダニに刺されると刺し口が2つできる！」との風評は，筆者が室内塵性ダニ類（House dust mite）の研究をはじめた1980年代から耳にしてきた「都市伝説」である。恐らく読者の皆様も一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか？本書のタイトルは，第2章「夏のダニ」の中に述べられている6番目の話題である。答えは本書の中に。

本書を手にした時，「上手いなあ～このタイトル！」と思わず唸った。ページをパラパラとめくると眼に飛び込んできたのはいろいろなダニの美麗な走査型電子顕微鏡像や実体＆光学顕微鏡写真の数々。生物の多様な形態を観るのが大好きな筆者はしばらくそれらの写真に見入ってしまった。それらの図版を見るだけでもワクワク楽しい気分になってくる。

著者の島野智之博士は，多くの学術論文はもとより「ダニ・マニア」（八坂書房・2015）や「ダニのはなし～人間との関わり～」（朝倉書店・2016）などの一般書や専門書籍も数多く執筆されている世界的にも有名なダニ学者である。私が知る限り『我国で最もダニを愛してやまない研究者』である。

そんな島野博士がダニ愛を込めて書き上げた本書は，3つの章から構成されており，第1章「春から初夏のダニ」，第2章「夏のダニ」，第3章「秋から冬のダニ」として，季節ごとにダニの話題を3～6項目ずつまとめたところも秀逸である。第1章の「春告げダニ」では屋上に突如大量に出現する“カベアナタカラダニ*Balaustium murorum*”がどうして一時期に大発生するのか解説している。第2章の「ハチドリとダニ」では，ハリダニ*Proctolaelaps kirmsei*が登場する。1秒間に50回も羽ばたきする世界最小かつ高速の美しい鳥のくちばしにまたがり縦横無尽に乗りこなしているというハリダニは，ハチドリと共に花の蜜を餌としているとのこと。凄い寄生生活である。第3章の「チーズダニをめぐる旅へ」では，世界的に著名なミモレットチーズ（ダニ付チーズ）とアシブトコナダニ*Acarus siro* ＆チーズコナダニ*Tyrolichus casei*を訪ねての著者のフランスからドイツの旅模様が書かれている。ミモレットチーズにダニが繁殖することによって美味しくなるかどうかについては本書を読んでのお楽しみとしたい。

室内環境を専門とする本学会の会員の方々に，「室内塵性ダニ類によるアレルギー疾患」だけでなく，「ダニってそもそもどんな生物なのか？」，「ダニの自然生態系での役割りとは？」，「興味深いヒトとの関わり」などを啓発したく，是非一読頂きたいお薦めの一冊である。

川上 裕司（東京家政大学大学院人間生活学総合研究科）